

紀伊水道德島県沿岸で漁獲されたホシガレイについて

海洋生産技術担当 岡崎 孝博

Key word ; ホシガレイ, 紀伊水道, 大阪湾, 放流, 種苗, 小型底びき網

見慣れないカレイ

平成 21 年 6 月 26 日, 紀伊水道で操業する小型底びき網漁業者から「見慣れないカレイ」を受け取りました。事前のお話では, 「漁をはじめて 20 年余りになるが, これまで見たことのないカレイが獲れた」とのことでした。

お言葉どおりそれは一見して「見慣れないカレイ」であり, 私自身, 何という名のカレイなのか分かりませんでした。鱗が比較的大きく, 体表を触るとカレイ類によくある「ぬるっとした感じ」が少なく, ざらついていました。

正体はホシガレイ

水研に持ち帰って調べた結果, 全長は 250mm, 体重は 196.9g で, 形態的な特徴からホシガレイが疑われました。また, ヒラメやカレイ類の人工種苗では無眼側 (海底と接する側) の体表が黒くなる場合があり, 今回漁獲されたものも無眼側で 3 分の 2 ほどの黒化がみられるため, 人工種苗として放流されたものではないかと考えました。

そこで, 全国のホシガレイの種苗放流実績 (表 1) を調べたところ, 近隣では, 大阪府が本種の種苗放流に取り組んでいることが分かりました。早速, 大阪府水産技術センターに現物を送付して担当の大美博昭主任研究員に確認していただいたところ, ホシガレイであることが明らかになりました (写真 1)。

表 1 ホシガレイの種苗放流実績 (単位: 千尾)

年度	岩手	宮城	福島	茨城	神奈川	大阪	愛媛	長崎	大分	合計
H10	-	43	11	-	12	-	-	-	-	66
H11	-	44	8	-	-	-	-	115	-	167
H12	18	59	9	-	27	-	10	35	-	158
H13	14	19	30	-	15	-	-	74	-	152
H14	19	33	17	-	24	-	-	48	-	141
H15	6	239	70	0	11	-	-	151	10	487
H16	19	40	53	1	19	-	-	103	15	250
H17	5	38	54	-	21	-	-	285	-	403
H18	3	106	72	-	-	14	-	137	-	332
H19	31	80	28	-	14	5	-	214	-	372

-: 放流実績なし

「栽培漁業種苗生産、入手・放流実績 (全国): 水産庁, 独立行政法人水産総合研究センター, (社) 全国豊かな海づくり推進協会」より作成



写真1 紀伊水道德島県沿岸で漁獲されたホシガレイ(上:有眼側,下:無眼側)
 ・平成21年6月,小型底びき網で漁獲
 ・全長250mm,体重196.9g

そもそもホシガレイとはどんな魚なのでしょうか。ホシガレイは、岩手県から福島県の三陸沿岸と瀬戸内海西部,九州西岸域を中心に多くみられ,全長60cm,体重4kgに達します(有瀧ら,2002年)。愛媛県伊予灘では「キビガレイ」と呼称され,産卵期である12~2月にかけて少量ながら漁獲されます(加藤ら,2001年)。また,大阪府では「ヘイジガレイ」の名で親しまれていましたが,地元漁業者の話では数十年ほど前から漁獲されていないとのことです(辻村,2006年)。本県沿岸では,漁業者のお話どおり昔から生息が確認されたことがなく,放流実績もありません。

本当に放流魚か?

今回漁獲されたホシガレイが放流魚だと確定することはできませんが,以下は放流魚だと仮定して書き進めます。ホシガレイの放流について,近隣では大阪府が平成18年度から取り組んでおり,また,兵庫県の沼島漁協でも平成20年度に放流が行われました(表2)。

表2 大阪湾及び沼島沿岸でのホシガレイの種苗(当歳魚)放流実績

放流場所	年度	尾数 (千尾)	全長範囲 (mm)	平均全長 (mm)	放流時期
大阪湾	H18	14	80-150	97	6月(貝塚市・泉南市地先)
	H19	2	96-150	121	
	H20	放流はほとんど無し			
沼島沿岸	H20	5	100-150	(中心サイズ)	3月

「栽培漁業種苗生産、入手・放流実績(全国):水産庁,独立行政法人水産総合研究センター,(社)全国豊かな海づくり推進協会」,大阪府水産技術センター及び沼島漁協からの聞き取りより作成

ホシガレイの成長について、福島県沿岸では 1 歳で全長 185-190mm, 2 歳で全長 314-337mm に成長するとの報告があり(島村ら, 2007 年), 海域は異なるものの, これを参考にすると, 今回のホシガレイは 1~2 歳魚と考えられます。

また, このホシガレイは大阪湾と沼島沿岸のどちらで放流されたものなのでしょうか。放流場所と漁獲場所の位置関係は図1に示すとおりです(図 1)。大阪湾での放流魚とすれば, 平成 20 年度の当歳魚の放流実績がほとんど無いことから, このカレイは平成 19 年度に放流された 2 歳魚に相当し, 約 2 年の間に本県沿岸に移動し漁獲されたものと考えられます。また, 沼島沿岸での放流魚とすれば, 放流魚の中心サイズは全長 100-150mm で, 放流された平成 21 年.3 月から漁獲される 6 月までの約 3 ヶ月間に全長 250mm まで成長したことになり, 福島県沿岸での知見(島村ら, 2007 年)に比べて成長がかなり速いと考えられますが可能性は否定できません。

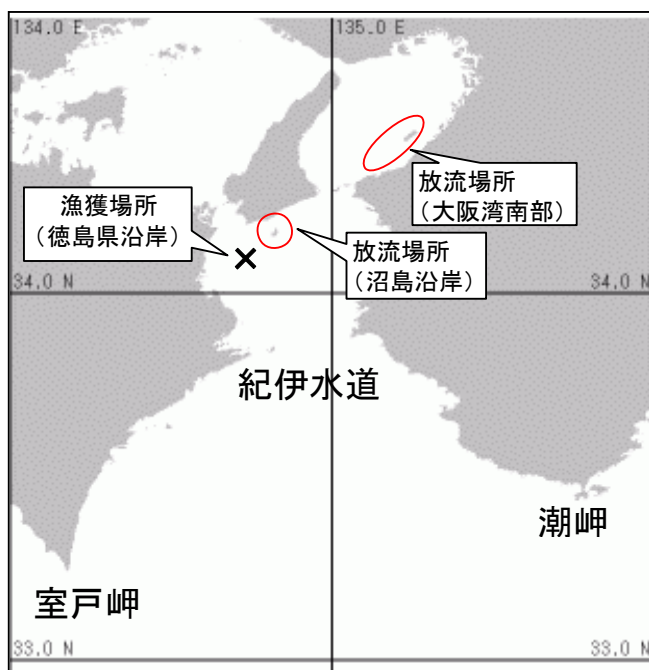


図 1 ホシガレイの種苗放流場所と漁獲場所

以上, このホシガレイの放流場所を推察しましたが大阪湾, 沼島沿岸ともに可能性があり, どちらかに結論付けることはできませんでした。今後, 標識放流(大阪府, 2008 年)の再捕データ等によって, 大阪湾及び紀伊水道をはじめとする周辺海域における本種の資源生態が明らかになることが期待されます。

海からの情報は貴重!

お寄せいただいた情報は, 種苗放流されたホシガレイに関する貴重なデータとして関係機関にお伝えしました。本県にとっても, はじめてホシガレイの漁獲が認められたことは大変貴重な知見です。

海は続いているので魚介類は県境を越えてたやすく移動しますが, それに関する情報

は人が交換しなければ伝わりません。今回のホシガレイでも、いただいたお話が結果的に有益な情報になりました。また、このようなこともあり、水産研究所では国や周辺県の関係機関と定期的に情報交換するなど連携を密にしています。

漁業者の皆様におかれましても、今後とも、今回のようなことがあれば情報提供等よろしく願いいたします。

参考文献

有瀧真人・前川秀夫・首藤宏幸；ホシガレイの放流適地はどこ？（魚の幼稚園探し）．さいばい，103，2002，16-22．

加藤利弘・平田伸治・河野芳巳；伊予灘におけるホシガレイ放流種苗の移動分散．愛媛水試研報，9，2001，29-34．

辻村浩隆；大阪湾に放流したホシガレイ mtDNA の多型について．大阪水試研報，16，2006，7-10．

島村信也・安岡真司・水野拓治・佐々木恵一・根本芳春；ホシガレイに関する研究Ⅱ．漁業実態と福島県沿岸における生活史．福島水試研報，14，2007，69-90．

大阪府環境農林水産総合研究所水産研究部；栽培漁業技術開発事業．平成18年度事業資料集，2008，105-108．

大阪府環境農林水産総合研究所水産研究部；栽培漁業技術開発事業．平成19年度事業資料集，2008，111-114．